

Fリーグの認知度に関する研究

A study of visibility of F.LEAGUE

1K04B021-5

伊藤 琢

指導教員

主査 堀野博幸先生

副査 石井昌幸先生

I 序論

2008 年 9 月 23 日、フットサルファン待望の競技フットサルの全国リーグ、『Fリーグ』が開幕した。開幕戦には 2 日間で合計 1 万 4 千人もの観客が訪れ、リーグ中盤を迎える現在も依然として多くの観客を集めている。

本研究は F リーグに関する質問を開幕前、開幕後の 2 度にわたってアンケート調査し、各質問における変化を考察していく。また被験者をセグメントに分けた上でさらに以下の点について注目して検証した。

1. フットサル特有のいわゆるエンジョイと呼ばれる関わり方をしているプレーヤーたち(集団 A)がどれだけ F リーグに関心を持っているか。
2. 競技フットサルの経験はないが、サッカーを長年やっている人たち(集団 B) がどれだけ競技フットサルに関心を持っているか。実際に F リーグでプレーをすることにどれだけ興味を持っているか。
3. 実際にホームタウンに住む人々(集団 C)はホームチームに対してどれだけ興味を持っているか。

II 方法

1. 被験者

2008 年現在各大学に所属する学生 308 名。

2. 研究スケジュール

開幕が 9 月 23 日であったため、開幕半年前の 2008 年 3 月に 1 度目のアンケートを実施し、開幕 1 ヶ月後の 10 月下旬に 2 度目のアンケートを実施した。

3. アンケート内容

- (1) 被験者の情報
- (2) セグメント特定のための情報
- (3) F リーグ(競技フットサル)に対する経験、知識、考え
 - (a) 競技フットサルのテレビ視聴の経験について
 - (b) F リーグ認知度について
 - (c) F リーグの情報をどの媒体を通して知ったか
 - (d) F リーグチームの認知度
 - (e) ひいきチームの有無と応援する理由
 - (f) F リーグの試合の観戦経験の有無
 - (g) F リーグの試合の観戦欲
 - (h) F リーグでプレーしたいか

III 結果と考察

(1) 集団 A

F リーグの認知度、F リーグのゲームに対する観戦欲共に、数値を伸ばした。観戦欲も増加となっていることからエンジョイ層も F リーグ開幕によって競技フットサルに興味を持つ人が多くなったといえる。ただ、両セグメントの増加の度合いはコアファン・コアプレーヤーなどと比較するとやはりまだまだ小さく、開幕による影響は一部の方に留まっていることが分かる。

(2) 集団 B

まず認知度が、前期が 34%から 78%へと増加し、観戦欲では、前期の平均値が 2.16 なのに対して後期が 1.95 と微減した。F リーグでのプレー欲に対する質問では、前期が 3.39、後期が 3.15 と観戦欲の項目と同じく微減となった。開幕前後での変化は見られなかったものの、プレー欲は前後期通じて高く、大半の選手はプレーしてみたいと考えていることが分かった。

(3) 集団 C

前期の調査では、ホームタウンでありながら認知度は 25%に留まっていたが、さすがに開幕後には 90%を超える被験者が F リーグの存在を認知していた。観戦欲では、前期の平均値が 2.2、後期が 2.0 とあまり大きな変化はなかったが、後期には応援するチームに町田を挙げた被験者が 3 名いた他、実際に町田のホームゲームを観戦した方もおり、関心を向けてもらえていると感じられた。

IV 総合考察

やはり開幕により認知度は大きく増加した。F リーグがニュースやサッカー番組、サッカー雑誌などで大きく取り上げられたことが大きいだろう。観戦欲に関する質問では、全体的には大きな増加は見られなかった。セグメント別に見ると、実際に自分自身が第一線でプレーしている人々の数値が高く、観客の中心になっていることが分かる。自分ではプレーしない人や、女性などが見るスポーツとして楽しむまでには至っていないのが現状のようだが、その中でエンジョイ層と呼ばれる方々は少しずつではあるが興味を示していることが分かり、今後もこの層が F リーグ普及のキーになるだろう。また集団 B では多くが F リーグでプレーしたいと答えたことから、F リーグの開幕により高いサッカー経験を持つ選手達がフットサルに興味を持ち、フットサルに転向してくることが今後も予想され、競技力の向上やフットサル日本代表の強化につながると考えられる。